02　ラベルの種類

ラベルは、4 色表示、グレースケール、白黒の中から、
「農産物の環境負荷低減に関するラベル表示運用ガイドライン」に従い、
決定された等級のものを使用してください。
英語版ラベル（ChoiSTAR）もガイドラインに従い、
決定された等級のものを使用してください。

・４色表示

英語ラベル（一例）

・グレースケール

英語ラベル（一例）

・白黒

温室効果ガス削減
温室効果ガス削減
温室効果ガス削減
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全
温室効果ガス削減
生物多様性保全

英語ラベル（一例）

みえるらべる
Climate
MIDORI Sustainable Food Systems, MAFF
みえるらべる
Climate
Biodiversity
MIDORI Sustainable Food Systems, MAFF
みえるらべる
Climate
Biodiversity
MIDORI Sustainable Food Systems, MAFF

03　カラー表示（４色表示、グレースケール、白黒）

ラベルは４色表示、グレー、白黒のいずれかの表示が可能です。
それぞれ、以下に示す色を使用してください。

・４色表示

- CMYK　100 0 0 0　｜　RGB　0 160 233　｜　HEX　#00a0e9
- CMYK　100 90 0 0　｜　RGB　11 49 143　｜　HEX　#0b318f
- CMYK　100 0 100 0　｜　RGB　111 186 44　｜　HEX　#6fba2c
- CMYK　100 60 100 0　｜　RGB　0 94 60　｜　HEX　#005e3c
- CMYK　0 15 50 0　｜　RGB　254 223 143　｜　HEX　#fedf8f
- CMYK　20 50 100 0　｜　RGB　209 142 4　｜　HEX　#d18e04
- CMYK　0 0 0 0　｜　RGB　255 255 255　｜　HEX　#ffffff

・グレースケール

- CMYK　0 0 0 100　｜　RGB　30 30 30　｜　HEX　#1e1e1e
- CMYK　0 0 0 65　｜　RGB　120 120 120　｜　HEX　#787878
- CMYK　0 0 0 15　｜　RGB　222 222 222　｜　HEX　#dedede
- CMYK　0 0 0 50　｜　RGB　128 128 128　｜　HEX　#808080
- CMYK　0 0 0 0　｜　RGB　255 255 255　｜　HEX　#ffffff

・白黒

● CMYK　0 0 0 100　|　RGB　0 0 0　|　HEX　#000000

○ CMYK　0 0 0 0　|　RGB　255 255 255　|　HEX　#ffffff

04　最小表示サイズ

最小サイズには制限はありませんが、
印刷物等において文字要素の可読性が十分に確保できるサイズで
表示してください。

05　アイソレーション（保護エリア）

英語版ラベル（ChoiSTAR）は、文字を配置した以下の範囲について、
その他のデザイン要素や文字などを表示してはいけません。
（写真、色ベタ等はロゴ視認できる範囲で可とします。）
日本語版ラベル（みえるらべる）には、アイソレーションを設けません。

06　禁止事項

ラベルの一貫性を保ち、取組の知名度を向上していくために、
認められていない色、形での表示・変更を行わないよう、
禁止例を参考に使用してください。

・「農林水産省公認」、「日本政府公認」等、誤解を与える可能性がある文言を添えない

ポイント！
本ガイドラインに基づく環境負荷低減の見える化の取組は、自己宣言による環境表示としています。「公認」や「認証」ではありません。

・農林水産省のロゴと一緒に使用しない

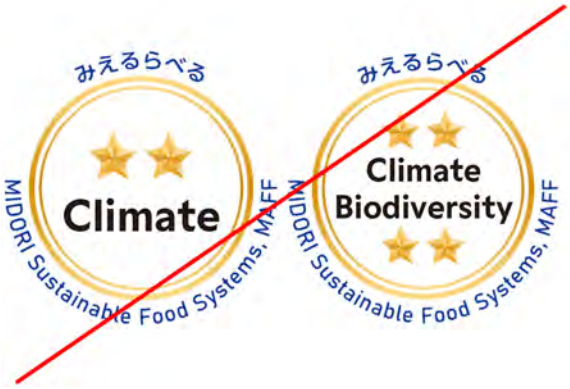
ポイント！
「農林水産省」又は「MAFF」のロゴは、原則として農林水産省以外の者が使用することはできません。

・拡張したり、押しつぶしたり、歪めたりしない

・指定以外の書体にしない

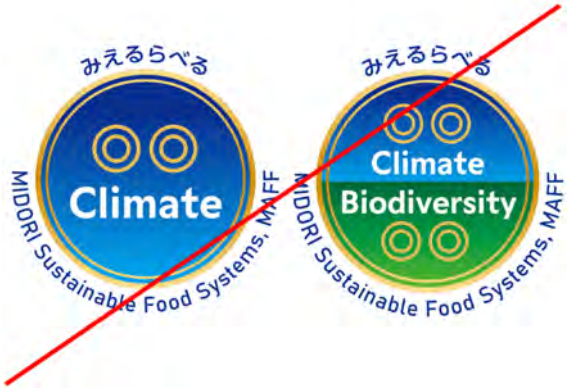
・色を変えない

・省略・トリミングしない



・要素を加えない

・要素を変更しない



・ラベルの一部を隠したり欠けたりさせない
　※ラベルの一部が欠けることがなければ異なるロゴ等を近傍
　　又は周辺に配置することは、妨げません。

・視認性が悪い背景の上に表示しない

別記２　ラベル表示例

１．等級ラベル表示とＪ－クレジット制度への参加の両方を行う場合に表示が必要なもの
Ｊ－クレジット制度への参加の併記（第２部２（３）関係）

① J-クレジット制度のプロジェクト番号・概要を記載

Ｊ-クレジット制度にも登録されています
プロジェクト番号：P○○○
運営管理者：株式会社○○○
実施地域：全国
プロジェクト概要：農地におけるバイオ炭の農地施用
認証期間の開始日：2024/○○/○○

② J-クレジット制度のプロジェクト概要をＱＲコード等で代替

Ｊ－クレジット制度にも登録されています。
ＱＲサンプル
プロジェクト番号：P○○○

③ J-クレジット制度のプロジェクト概要をＱＲコード等で代替

（みえるらべるの紹介ホームページのＱＲコード等も併記する場合）

ＱＲ
サンプル

みえるらべるの紹介はこちら↑

Ｊ－クレジット制度にも登録されています。
ＱＲサンプル
プロジェクト番号：P○○○

（※）実際の表示にあたっては、Ｊ－クレジットに関する記載（ＱＲコード等を含む。）が、みえるらべるについての説明や補足であるかのような誤解を招かないよう、留意して表示を行う必要があります。

２．任意による表示（第２部３（４）関係）

（１）加工食品等への表示

① ラベル表示可能な食品例：

・１次産品であるトマトをそのまま販売

・１次産品が米の場合、おにぎりや米菓等への表示

・１次産品が野菜の場合、ミックスサラダ、野菜スープ等への表示

・１次産品が果実の場合、ジュース、ジャム等への表示

・レストラン、食堂、喫茶店等の外食事業者が提供する調理食品への表示

② 等級が付与された１次産品が何かが分かり、加工食品自体が評価を受けたとの誤認を与えないような表示の例：

・「この○○（加工食品名）に使用されている□□（「主な原材料」である１次産品名）は温室効果ガス削減貢献の取組により栽培されたものです」などの記載をラベル近傍に併記

（２）農林水産省が付与した登録番号の併記

登録番号：2025-0000-E00000

農林水産省登録番号
2025-0000-E00000

ポイント！

「農林水産省への登録」であることのみを切り出した文言の併記はできません。他の農林水産省への登録の仕組みと混同しないよう、付与された「見える化」の登録番号を併記してください。

（３）過去に取得した等級の併記

記載例：

・○年連続１つ星取得

・○年、○年、○年に★★を取得

３年連続１つ星取得

（４）具体的取組の併記

① 併記する記述の例

・堆肥の施用により温室効果ガスの削減に貢献

・バイオ炭の農地施用などにより温室効果ガスの削減に貢献

・中干し期間の延長などにより温室効果ガス削減に貢献しながら栽培された米です

・コウノトリの保全のため冬期湛水に取り組んでいます

② 併記例

バイオ炭の農地施用などにより
温室効果ガスの削減に貢献

コウノトリの保全のため
冬期湛水に取り組んでいます

（５）農林水産省のガイドラインに基づく表示であることの記載

別記３　農産物の環境負荷低減に関するラベル表示運用ガイドライン
・プライバシーポリシー

１．基本的考え方

本プライバシーポリシーは、農林水産省が「農産物の環境負荷低減に関するラベル表示運用ガイドライン」（以下「ガイドライン」という）を円滑に運用し、ガイドラインに基づき収集した情報について、その取扱いを明確にすることを目的としています。収集した情報は利用目的の範囲内で適切に取り扱います。農業者等がガイドラインに基づき農林水産省へ報告を行った際は、報告された情報の取扱いについて本プライバシーポリシーに同意したものとみなします。

２．収集する情報の範囲

農林水産省は、ガイドラインに基づき以下の情報を収集します。

・入力データ、算定結果、及び算定結果に基づく等級
・農業者の氏名、住所、電話番号、及びメールアドレス
・団体にあっては、団体の名称、代表者名又は担当部署名、所在地、電話番号、及びメールアドレス
・品目及び栽培面積
・収穫量

３．情報の利用目的と公開の範囲

・報告いただいた情報は、ラベル表示とその算定根拠とのトレーサビリティ確保の観点から、報告いただいた算定結果に対して登録番号を付与するために使用します。
・登録番号と品目名は農林水産省のホームページで公表します。生産地（都道府県）及び農業者／団体の名称は、簡易算定シート上のチェック項目により公表の希望があらかじめ確認された場合、農林水産省のホームページで公表します。その他、全国や地域単位等で集計したデータを公表することがある（農林水産省が個別の情報がわかる形での情報の公開を希望する場合には、許可をいただいた上で、公表します）ほか、今後の政策立案及びガイドラインの推進や改定にあたり参考とします。
・提出いただいた情報や算定結果に関して確認を要する場合など、ご連絡が必要な場合には連絡先情報（氏名、住所、電話番号及びメールアドレス、団体にあっては団体の名称、代表者名又は担当部署名、所在地、電話番号及びメールアドレス）を利用します。

なお、ガイドライン「４．信頼確保に向けた取組」における「（１）情報の検証と改善指導」に基づき、算定結果の根拠資料の提供をお願いする場合があります。

４．利用及び提供の制限

農林水産省では、法令に基づく開示要請があった場合、不正アクセス、脅迫等の違法行為があった場合その他特別の理由のある場合を除き、収集した情報を 3 の利用目的以外の目的のために自ら利用し、又は第三者に提供いたしません。

５．安全確保の措置

農林水産省は、収集した情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他収集した情報の適切な管理のために必要な措置を講じます。また、農林水産省はその業務の外部への委託に伴い、収集した情報の取扱いについても委託する場合があります。その場合には、委託先においても収集した情報の漏えい、滅失又はき損の防止その他の収集した情報の適切な管理がなされるよう、必要な措置を講じます。

６．適用範囲

本プライバシーポリシーは、ガイドラインに基づき農林水産省が収集する情報にのみ適用されます。

７．その他

農林水産省は、本プライバシーポリシーを必要に応じて改定することがあります。

（参考資料）

（１）関連ＵＲＬ集

・簡易算定マニュアル（農林水産省ホームページ）：

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/input.html

・見つけて！農産物の環境負荷低減の「見える化」～温室効果ガス削減への貢献と生物多様性保全への配慮（農林水産省ホームページ）

https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/being_sustainable/mieruka/mieruka.html

・温室効果ガス簡易算定シートの利用者登録（農林水産省ホームページ）

https://www.contactus.maff.go.jp/j/form/kanbo/b_kankyo/santeiapply.html

（２）本ガイドラインの担当部署

・農林水産省　大臣官房　みどりの食料システム戦略グループ

（３）改定履歴

2024 年３月発行

2025 年３月改定

2025 年４月改定

（４）フードサプライチェーンにおける脱炭素化の実践とその可視化の在り方検討会　委員名簿

（令和２年度）

椛島 裕美枝	イオン株式会社 環境・社会貢献部 マネージャー
久保 正英	一般社団法人エコ食品健究会 代表理事
椎名 武夫	千葉大学 大学院園芸学研究科 園芸科学コース 教授
白戸 康人	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター温暖化研究統括監
須藤 重人	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境変動研究センター 上級研究員
鳴海 洋一	日本ハム株式会社 サステナビリティ部 プロモーター
西尾 チヅル	筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授
夫馬 賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO
松原 稔	りそなアセットマネジメント株式会社 執行役員 責任投資部長
綿田 圭一	カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ 専任課長

（敬称略、50 音順）

臨時委員	必要に応じて随時
事務局	農林水産省大臣官房環境政策室
委託事業者	一般社団法人サステナブル経営推進機構、デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

（令和３年度）

椛島 裕美枝	イオン株式会社 環境・社会貢献部 マネージャー
久保 正英	一般社団法人エコ食品健究会 代表理事
齋藤 雅典	東北大学 名誉教授
椎名 武夫	千葉大学 大学院園芸学研究院 先端園芸工学講座 教授
白戸 康人	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門　気候変動緩和策研究領域長
須藤 重人	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 農業環境研究部門　気候変動緩和策研究領域 緩和技術体系化グループ長
鳴海 洋一	日本ハム株式会社 サステナビリティ部 プロモーター
西尾 チヅル	筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授
夫馬 賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO
松原 稔	りそなアセットマネジメント株式会社 執行役員 責任投資部長
綿田 圭一	カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ 専任課長

（敬称略、50 音順）

臨時委員	必要に応じて随時
オブザーバー	環境省地球環境局地球温暖化対策課
事務局	農林水産省大臣官房環境バイオマス政策課地球環境対策室
委託事業者	一般社団法人サステナブル経営推進機構　デロイト トーマツ コンサルティング合同会社

（令和４年度）

安　東赫	国立研究開発法人農業･食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門 施設生産システム研究領域 施設野菜花き生育制御 グループ長
荻野 暁史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門 高度飼養技術研究領域 スマート畜産施設グループ 上級研究員
椛島 裕美枝	イオン株式会社 環境・社会貢献部 マネージャー
齋藤 雅典	東北大学 名誉教授
鈴木 貴博	株式会社鈴生 代表取締役社長 （(公財) 日本農業法人協会 会員）
中野 勝行	立命館大学 政策科学部 准教授
鳴海 洋一	日本ハム株式会社 サステナビリティ部 プロモーター
西尾 チヅル	筑波大学 ビジネスサイエンス系 教授
夫馬 賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO 国立大学法人信州大学グリーン社会協創機構特任教授
綿田 圭一	カゴメ株式会社 品質保証部 環境システムグループ

（敬称略、50 音順）

臨時委員	必要に応じて随時
オブザーバー	環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室、消費者庁食品表示規格課
事務局	農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ地球環境対策室
委託事業者	一般社団法人サステナブル経営推進機構

（令和５年度）

荻野　暁史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　畜産研究部門　高度飼養技術研究領域　スマート畜産施設グループ　上級研究員
草　　明生	全国農業協同組合連合会　畜産対策部　統轄課 畜産サステナビリティ推進室　室長
齋藤　雅典	東北大学 名誉教授
清水　康男	明治ホールディングス株式会社　サステナビリティ推進部　環境グループ長
中野　勝行	立命館大学　政策科学部　准教授
鳴海　洋一	日本ハム株式会社 サステナビリティ部 プロモーター
西尾 チヅル	筑波大学 副学長　兼　ビジネスサイエンス系　教授
夫馬　賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO 国立大学法人信州大学グリーン社会協創機構特任教授
椛島 裕美枝	イオン株式会社 環境・社会貢献部 マネージャー（令和５年 11 月 30 日まで）
宮澤　正紀	イオントップバリュ株式会社　戦略本部　副本部長　兼　環境推進室長（令和５年 12 月１日から）

（敬称略、50 音順）

オブザーバー	環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室、消費者庁食品表示規格課
事務局	農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ地球環境対策室
委託事業者	一般社団法人サステナブル経営推進機構

（令和６年度）

荻野　暁史	国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構　畜産研究部門　高度飼養技術研究領域　スマート畜産施設グループ　グループ長
草　　明生	全国農業協同組合連合会　畜産対策部　統轄課 畜産サステナビリティ推進室　室長
齋藤　雅典	東北大学 名誉教授
清水　康男	明治ホールディングス株式会社　サステナビリティ推進部　環境グループ長
中野　勝行	立命館大学　政策科学部　准教授
鳴海　洋一	日本ハム株式会社 サステナビリティ部 プロモーター
西尾 チヅル	筑波大学 副学長　兼　ビジネスサイエンス系　教授
夫馬　賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO 国立大学法人信州大学グリーン社会協創機構特任教授
宮澤　正紀	イオントップバリュ株式会社　戦略本部　副本部長　兼　環境推進室長

（敬称略、50 音順）

オブザーバー	環境省地球環境局地球温暖化対策課脱炭素ビジネス推進室、消費者庁食品表示規格課
事務局	農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ地球環境対策室
委託事業者	一般社団法人サステナブル経営推進機構

（５）生物多様性保全の見える化技術検討会　委員名簿

（令和５年度）

荒木 洋美	株式会社アレフ SDGs 推進部
石井 淳	たじま農業協同組合 営農企画課 副課長
井村 辰二郎	日本農業法人協会 理事株式会社金沢大地 代表
大久保 悟	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構　農業環境研究部門 農業生態系管理研究領域生物多様性保全・利用グループ長
西尾 チヅル	筑波大学 副学長、附属図書館長、ビジネスサイエンス系・教授
橋本 禅	東京大学准教授
福永 庸明	イオンアグリ創造株式会社 代表取締役社長
夫馬 賢治	株式会社ニューラル 代表取締役 CEO 国立大学法人信州大学 グリーン社会協創機構 特任教授
山口 力	株式会社サンプラザ 代表取締役社長

（敬称略、50 音順）

事務局　　農林水産省大臣官房みどりの食料システム戦略グループ